

エネルギー教育 講演、事例で理解

教員ら福井でセミナー

教育関係者を対象にしたエネルギー・環境教育セミナーは30日、福井市の福井商工会議所ビルで開かれた。写真。理科や社会科の教員ら約40人



が、講演や県外2小中学校の事例発表を通して、エネルギー教育に理解を深めた。

県内の経済団体でつくる県環境・エネルギー懇話会が毎年開いている。

基調講演では、文部科学省初等中等教育局主任視学官の清原洋一さんが「近くの企業と連携したり地域の特性を生かした教育を行い、児童生徒の発想を広げていかななくてはならない」と強調した。実践事例発表では、経済産業省のエネルギー教育モデル校に指定されている大阪市東粉浜小と札幌市白石中が活動内容を紹介した。東粉浜小の羽川昌廣校長は「周辺の企業や関係機関と協力し、6年生では家庭で水素自動車走らせ、5年生では気象キヤスターが出前授業を展開したことなどを報告。」豊富な体験学習が児童の驚きや感動につながり、学ぶ力が養われていくと話した。(黒田美紗)